

福島県ふるさとふくしま帰還支援事業（県外避難者支援事業）事業評価調書

団体名 特定非営利活動法人フュージョン社会力創造パートナーズ

<p>事業名</p>	<p>原発避難者に対する個別訪問・電話相談事業</p>
<p>事業の目的 事業の目標</p>	<p>【目的】 福島県から茨城県つくば市への避難者は、H25.3.22 現在、205 世帯、505 名と、茨城県内では 2 番目の多さとなっている。 これまで、つくば市では、つくば市職員が中心となって個別訪問が行われてきた。また、交流会は、つくば市、筑波学院大学、筑波大学、茨城県内避難者支援者ネットワーク「ふうあいねっと」、避難者自主グループなど、様々なセクターが密に連携を取りながら、協働して行われてきた。一方で、つくば市以外の県南地域の自治体は、つくば市ほどの支援は受けられていない実情も垣間見られるようになった。 震災後 2 年が経過し、避難者のニーズも個別の実情に応じて変化している中で、今後は、各セクターの強みを活かした、より個別の実情に応じたパーソナルケアが求められている。 そこで、本 NPO は、理事長が「ふうあいねっと」の副代表を務め、避難者支援活動を行ってきた経験と実績を活かし、今後つくば市を中心に様々な組織・セクターと連携をしながら、自治体の枠に囚われない茨城県南地域での電話相談や訪問活動を行う。この活動を通して、個別のニーズに応じた必要な支援情報の提供、支援機関との連携・繋ぎなど、個別に対応する機会をつくることで、ニーズが表面化しにくい環境に置かれている避難者の生活をサポートしていくことを目的とする。</p> <p>【目標】 避難者個別のニーズに応じた必要な支援情報の提供、支援機関との連携・繋ぎなど、個別に対応する機会をつくることで、課題解決を行う。年度内を通して、つくば市内で延 60 世帯、美浦村・阿見町・牛久市などの茨城県南地域で延 10 世帯を目標に訪問活動を行う。電話での対応については、その都度行う。</p>
<p>事業実施内容</p>	<p>1. 平成 25 年 6 月 8 日～平成 26 年 2 月 24 日：個別訪問活動 ●訪問延 70 世帯（実質 52 世帯、内訳：つくば市（延 59 世帯、実質 42 世帯）、牛久市（延 3 世帯、実質 2 世帯）、阿見町（延 2 世帯、実質 2 世帯）、美浦村（延 4 世帯、実質 4 世帯）、稲敷市（延 2 世帯、実質 2 世帯）） ●個別訪問実働人数延 16 名</p> <p>2. 平成 25 年 6 月 30 日：個別訪問に伴う傾聴・メンタルヘルストレーニング ●内容：個別訪問活動前の事前研修 ●講師：筑波大学体育系教授（心理学） 坂入洋右氏 ●場所：筑波大学体育科学系 A 棟 507 セミナー室 ●参加者：9 名（NPO フュージョン社会力創造パートナーズ協力者、筑波大学学生）</p>  <p>3. 平成 25 年 7 月 24 日：東日本大震災支援全国ネットワーク（JCN）主催 第 1 回広域避難者支援ミーティング・全国版に参加 ●内容：日本全国で避難者支援活動を行っている団体が一堂に会し、情報交換を行う ●出席団体：ふうあいねっとを始め、北海道から沖縄までの 76 団体（120 名） ●場所：TKP 大手町ビジネスセンター http://www.jpn-civil.net/2013/kouiki/kouiki_meeting/zenkoku1.html</p>

4. 平成 25 年 10 月 14 日：福島県説明会開催（旧稲敷郡対象：牛久市、阿見町、美浦村、稲敷市）（福島県、福島県教育委員会との連携）
- 内容：旧稲敷郡で初開催の避難者交流会・意見交換会
 - 説明者：福島県 野地誠氏、早坂一希氏、福島県教育委員会 星野尊乗氏
 - 来賓：美浦村長 中島栄氏、美浦村教育長 門脇厚司氏
 - 場所：美浦村老人福祉センター
 - 避難者参加者：16 名
 - 支援者参加者：美浦村民政委員、美浦村社会福祉協議会、美浦村会議員、美浦村子育てサポーター、龍ヶ崎市・牛久市支援団体「りゅうのしっぽ」、など



5. 平成 25 年 12 月 5 日：避難者ママ会協力（旧稲敷郡対象：牛久市、阿見町、美浦村、稲敷市）（福島県教育委員会との連携）
- 内容：旧稲敷郡内避難者ママ会の初会合
 - 説明者：福島県教育委員会 星野尊乗氏
 - 来賓：美浦村教育長 門脇厚司氏
 - 場所：美浦村老人福祉センター
 - 避難者参加者：5 名
 - 支援者参加者：美浦村民政委員、美浦村社会福祉協議会、美浦村 PTA 連絡協議会、龍ヶ崎市・牛久市支援団体「りゅうのしっぽ」
6. 平成 26 年 2 月 13 日：福島県説明会開催（つくば市（児童生徒のいる家庭のみ）、土浦市（児童生徒のいる家庭のみ）、常総市、下妻市、つくばみらい市、守谷市対象）（福島県、福島県教育委員会との連携）
- 内容：つくば市・土浦市の児童生徒のいる家庭に加えて、常総市、下妻市、つくばみらい市、守谷市の避難者対象初開催の交流会・意見交換会
 - 共催：ルピナスの会
 - 説明者：福島県 早坂一希氏、福島県教育委員会 星野尊乗氏
 - 場所：つくば市立並木小学校
 - 避難者参加者：3 名
 - 支援者参加者：NPO フェュージョン社会力創造パートナーズ協力者、ルピナスの会



7. 平成 26 年 2 月 21 日：個別訪問に伴う傾聴・メンタルヘルストレーニング
フォローアップ
- 内容：個別訪問活動後の事後研修
 - 講師：筑波大学体育系教授（心理学） 坂入洋右氏
 - 場所：筑波大学体育科学系 A 棟 507 セミナー室
 - 参加者：3 名（NPO フェュージョン社会力創造パートナーズ協力者）
8. 平成 26 年 3 月 14 日：避難児童・生徒の支援の在り方に関する意見交換会開催（福島県教育委員会との連携）
- 内容：福島県教育委員会から茨城県に派遣されている星野尊乗先生を囲んで、これ

までと今後の避難児童・生徒の支援の在り方に関する意見交換会

- 共催：ルピナスの会
- 説明者：福島県教育委員会 星野尊乗氏
- 場所：つくば市立並木小学校
- 避難者参加者：2名
- 支援者参加者：ルピナスの会、つくば市教育委員、並木小学校 PTA 副会長・次期 PTA 会長・評議委員、NPO フェージョン社会力創造パートナーズ協力者



事業達成度

1. 新規支援地域での避難者と地域との繋がりへの創出

本事業では、拠点となるつくば市内避難者の個別訪問を主としながらも、これまで全く支援の行き届いていなかった旧稲敷郡（牛久市、阿見町、美浦村、稲敷市）に避難されている方の個別訪問活動も、まだ一部ではあるものの、予定通り遂行することができた。

つくば市では、特に一部の方としか関わりのなかった松代地区への避難者を、地域の支援者と重点的に、約半数近い 12 世帯（延 24 世帯）を複数回ずつ訪問することができた。

また、旧稲敷郡では、これまで全く避難者と繋がりを持っていなかったが、昨年 10 月に美浦村で実施した福島県説明会を足掛かりとして、特に美浦村と稲敷市では地元の民生委員等と協力しながら、10 世帯（延 11 世帯）の方の個別訪問活動に繋げることができた。

これにより、避難者の声をじっくりと伺うことができたと同時に、地域のセーフティネットに徐々に繋がりを持たせることができていく。

避難者アンケートでは、特に交流会には参加しなくても、避難先の地域の方と繋がりを持った事には、安心材料として一定の評価を得ている。

一方、つくば市内のアパートに避難している主に自主避難者や、阿見町、牛久市では、まだまだ十分な繋がりが持っていないため、今後の課題として残った。

2. 避難者個別のニーズに応じたパーソナルケア

避難の長期化に伴い、個々のニーズが多様になってきていることが、上記の個別訪問活動やそれに伴う避難者アンケートからも明らかになってきた。特に茨城県の場合、強制避難の方が多いため、今後は避難先に永住を決定された方、現在の避難先で長期の避難生活を覚悟されている方、福島県内（特にいわき市）に土地を購入され戻ることを決めた方など、茨城県内又は福島県内で、避難元に戻れない前提で生活再建を進めている方が多い。これらの方々には、ニーズ特性や必要に応じて、避難者同士、避難者と自主グループ・支援組織・地域の民政委員など、と繋ぐ事ができた。

また、アンケートにもあるように、みんなで集まる交流会のような場には顔を出したくないが、個々には話をしたい、と要望される方も少なくないため、個別の関わりを通して、ニーズが表面化しにくい環境に置かれている避難者のパーソナルケアを行うことができた。

今後も、避難の長期化や避難者によっては避難先での永住の決断が進むものと想定されるため、引き続き、個々のニーズに応じた、寄り添った活動を行なっていく。

3. 避難者自主グループの発足支援

旧稲敷郡に避難している児童・生徒を持つ母親 5 名の繋がりを創り、旧稲敷郡で「ママ会」を発足させる支援を行うことができた。昨年 12 月に初会合を持ち、その後 2 回、地元支援者との連携の元、自主的な集まりを持った。

4. 当 NPO 法人の支援体制の確立

つくば市内では、行政、地元支援者、学生、また、旧稲敷郡の特に美浦村と稲敷市では、地元支援者や民政委員、と連携した避難者の支援体制を、まだ手探りながらも、確立することができた。

一方、母親世代、学生などは、自身の子育てや介護、世代交代などの課題もあり、支援の継続性に欠ける場合もあり、課題が残った。

5. 各セクターとの連携

1) ふうあいねっとのネットワークを活かし、他の支援団体との連携

ふうあいねっどに属する他の支援団体と連携し、情報共有をするとともに、特にルピナスの会（つくば市立並木小学校 PTA 有志と避難者 PTA 有志の会）やりゅうのしっぽ（龍ヶ崎市、牛久市の支援団体）など、支援対象・地域が重なる事業について

	<p>ては、協働することで、相乗効果のある活動を行うことができた。</p> <p>また、JCN 主催の広域避難者支援全国会議に参加することで、他県で支援活動を行なっている支援者組織、避難者自主組織の方と現況や課題について多様な視点から情報交換をすることができた。</p> <p>2) 避難者自主グループとの連携</p> <p>いい仲間つく浪会（代表：古場泉氏）と連携し、新たに会の会員になった方の橋渡しをしていただいた。また、当 NPO も、個別訪問で分かった課題となっている事案を会合で説明させていただいたり、他地域での活動状況の説明をさせていただくことで、相互に、より効果的な支援体制を作ることができた。</p> <p>3) 福島県との連携（福島県、福島県教育委員会）</p> <p>各説明会や交流会には、必ず福島県や福島県教育委員会の方にお越しいただくことで、避難者と福島県とが、直接顔の見える関係でやり取りをできる仕組みとすることができた。また、福島県の方に同席いただくことで、避難されている方との新たな繋がりを作ることができた。</p> <p>4) 避難者受入自治体との連携（つくば市、牛久市、阿見町、美浦村、稲敷市の各担当部署、及び各教育委員会）</p> <p>つくば市担当部署とは、頻りに情報交換をすることで、お互いの近況を共有し、効果的な支援とすることができた。</p> <p>また、説明会や交流会の案内を、つくば市、牛久市、阿見町、美浦村、稲敷市の各担当部署、及び各教育委員会を経由して、避難者に郵送いただくことで、対象全世帯に直接的な案内通知を行うことができた。</p> <p>6. 報告会、マスメディア等を通じた情報発信</p> <p>つくば市社会福祉協議会主催の傾聴ボランティア養成講座での事例報告（平成 25 年 9 月 18 日）、つくば市社会福祉協議会主催の地域活動を行なっている団体の活動報告会での事例報告（平成 26 年 1 月 30 日）、ふうあいねっとシンポジウム（平成 26 年 3 月 16 日）、また、マスメディアによる活動掲載（茨城新聞：平成 25 年 10 月 16 日、10 月 20 日、平成 26 年 3 月 11 日、毎日新聞：平成 26 年 3 月 20 日）等により、ふうあいねっとや当 NPO 法人の活動について情報発信を行うことができた。</p>
<p>今後の目標</p>	<p>1. 新規支援地域での避難者と地域との繋がり創出</p> <p>今後も、つくば市、他自治体、福島県、福島県教育委員会やつくば市内避難者自主グループ「いい仲間つく浪会」、茨城県内への避難者・支援者ネットワーク「ふうあいねっと」、学生と連携をしながら、まだ人間関係の構築が不十分な、つくば市内地区、自主避難されている方を中心に借上げ仮設住宅（アパート）への避難者の個別訪問を主として活動を行う。また、まだ十分な繋がりのできていない旧稲敷郡（特に牛久市、阿見町）やまだ支援が手付かずの常総市、守谷市に避難されている方の個別訪問活動も地域の方と進めていく。</p> <p>これにより、表面化しにくい避難者の声をじっくりと伺う機会を設けると同時に、地域の民生委員など、地域のセーフティネットに徐々に繋がりを持たせることで、個々のニーズに応じた、寄り添った見守り体制を確立していく。</p> <p>2. 避難者自主グループの支援</p> <p>継続して「いい仲間つく浪会」の交流会の支援を行うのと併行して、旧稲敷郡に避難している児童・生徒を持つ母親 5 名が繋がりを創り、「ママ会」を発足させたため、その自主的な活動の支援を行い、さらなる避難者同士、地域との繋がりを模索する。</p> <p>また、他の地域でも、交流会を極力、避難者主体で行って頂くことで、避難者の主体性を促すとともに、新たな参加者を見込んでいく。</p>